

# 第3回 草津市草津川廃川敷地土地活用検討委員会 会議次第

日 時 平成22年7月20日(火)  
午後6時から  
場 所 草津市役所8階大会議室

## 1. 開会

## 2. 検討議題

- ・ブロック毎の課題整理と方向性の検討について

## 3. その他

## 4. 閉会

### 【資料】

資料3：ゾーンイメージについて

資料3-1：第5次総合計画における位置づけ

資料4：ブロック毎の課題整理と方向性の検討一覧

参考資料：現況写真、魅力づくりの事例、アンケート調査結果（追加分）

資料3：ゾーンイメージについて

ゾーン		ゾーン1 (湖岸道路～メロン街道)	ゾーン2 (メロン街道～浜街道)	ゾーン3 (浜街道～大津湖南幹線)	ゾーン4 (大津湖南幹線～JR琵琶湖線)	ゾーン5 (JR琵琶湖線～国道1号)	ゾーン6 (国道1号～金勝川合流部)
1 草津川廃川敷地整備基本計画 (平成14年5月)		<b>【整備方針】</b> ・水域から陸域へと緩やかに環境条件が変化するようなエコトーン(推移帯)機能の保全 ・湖岸部へのつなぎのゾーン  <b>【導入機能】</b> 「緑」 ・河口からメロン街道までの約1.3kmをピオトープ保全区間とする。 「交通」 ・湖岸とつながる自転車・歩行者空間としてサイクリングロード等を整備する。	<b>【整備方針】</b> ・周辺の農業地域にマッチングしたゆとりある空間整備  <b>【導入機能】</b> ・「歴史的空間」 浜街道との交差。(街道文化の継承) 「緑」 ・豊かな自然環境を里山的な空間として保全していく。 旧河川の中の自然的要因の面影を残すよう配慮し、景観林等を保全する。 「交通」 ・ゆとりある交通空間を確保する。 湖岸とつながる自転車・歩行者空間としてサイクリングロード等を整備する。 「防災」 浜街道と連絡できる防災空間として位置付ける。	<b>【整備方針】</b> ・閑静な住居地域のゆとりある生活環境空間の創出  <b>【導入機能】</b> 「歴史的空間」 ・声浦道との交差。(街道文化の継承) 「緑」 ・住居地域の静かで良好な沿道環境・憩いと交流のための緑地空間を確保する。 ・既存公園・都市施設との連携をはかる空間とする。 ・市街地の初期雨水を浄化する施設を整備する。(市街地排水浄化対策施設) 「交通」 ・ゆとりある交通空間を確保する。 南北道路(大津守山近江八幡線等)と接続させる。 「防災」 ・中学校、体育館、運動公園等の避難場所との連携をはかる。 ・共同溝、防火水槽等の防災施設	<b>【整備方針】</b> ・南北地域の連絡による地域間交流の活性化  <b>【導入機能】</b> 「歴史的空間」 ・JR琵琶湖線との交流部の近代化遺産を保全する。(煉瓦造りのトンネル、鉄道上の河川跡) 「緑」 ・運動公園、市民体育館等と一体化した交流空間を確保する。 ・市街地の初期雨水を浄化する施設を整備する。(市街地排水浄化対策施設) 「交通」 ・ゆとりある交通空間を確保する。 南北道路((都)大津湖南幹線、(都)大江霊仙寺線等)と接続させる。 「防災」 ・運動公園、市民体育館等の避難場所との連携をはかる。 ・共同溝、防火水槽等の防災施設設置	<b>【整備方針】</b> ・歴史性を生かした空間整備 ・南北地域の連絡による地域間交流の活性化  <b>【導入機能】</b> 「歴史的空間」 ・歴史遺産として天井川の堤体を保全する。(一部切り下げ) 「緑」 ・旧東海道、旧中山道の街道文化を継承する歴史空間として保全する。 ・街中の憩いと交流のための空間とする。 桜並木を保全する。 「交通」 ・ゆとりある交通空間を確保する。 南北道路((都)宮町若竹線)と接続させる。 「防災」 ・市街地での防災空間(一時避難地)として位置付ける。	<b>【整備方針】</b> ・草津市、栗東市のゆとりある共有空間としての利用 ・南北地域の連絡による地域間交流の活性化  <b>【導入機能】</b> 「歴史的空間」 ・防災公園の中で歴史資料の展示を検討する。 「緑」 ・栗東市の緑のネットワークとの連携の拠点として整備する。 ・ゆとりある交通空間を確保する。 南北道路((都)青地新田坊袋線等)と接続させる。 「交通」 ・金勝川合流点付近は、防災公園として整備する。(河川区域として残す。) ・南北道路((都)青地新田坊袋線等)と連携できる防災空間として位置付ける。
2 市の利用計画(案) (平成21年12月)		<b>【利用計画】</b> 「自然公園的土地利用」 ・河川区域で多くの自然があることから、ピオトープ、親水空間としての整備を行う。	<b>【利用計画】</b> 「自然と親しむゾーン」 ・自然的要素が残っている地域であり、また周辺に民家も少ないことから、景観林等を保全することで、自然的要素を残しながら、自然と触れ合える場の提供をする。(釣堀やオートキャンプ場など)	<b>【利用計画】</b> 「農業体験ゾーン」 ・周辺に団地等も多いことから、農業体験(市民農園、野菜市)ができる空間とする。 ただし、一部を弾正公園の駐車場の拡張に一部使用する。また、必要に応じて多目的スポーツパークや多目的広場の設置(防災広場として兼用する)を行う。	<b>【利用計画】</b> 「公共施設の拡張と再構築」 ・野村運動公園、隣接する土地開発公社所有地を一体的に活用し、スポーツ施設の区域拡張・再構築を図る。 ・多目的グラウンド、芝生広場の設置、また市内の社会体育施設のあり方の検討を行いながら、現体育館の建替えも視野に入れて、敷地の再配置を行う。	<b>【利用計画】</b> 「歴史的空間の保全」 中心市街地に接する地域であることから、市民に憩いの場の提供をする。 ・天井川の形態を活かした歴史公園 ・子どもふれあい広場 ・中心市街地の再生を視野に入れたパーク&ライド駐車場	<b>【利用計画】</b> 「歴史的空間の保全」 中心市街地に接する地域であることから、市民に憩いの場の提供をする。 ・天井川の形態を活かした歴史公園 ・子どもふれあい広場 ・中心市街地の再生を視野に入れたパーク&ライド駐車場
3 旧草津川広場整備ワークショップ市民提案図 (平成20年12月)		—		—		<b>【テーマ】</b> 「みんなのいこえる緑の広場」 -暫定利用のため、整備は最小限に- (栄橋～草津川橋) ・中山道の渡しの再現、子ども広場、催し広場、お花見広場、グランドゴルフ場、ガーデニング等を整備する。	—
4 旧草津川廃川敷地管理協定 (平成17年6月)		—		<b>【暫定活用ゾーン設定】</b> 「自然的利用ゾーン」 (メロン街道～浜街道) ・草津川廃川敷地整備基本計画においてピオトープ保全区間として計画されている。これを活かし、自然を身近に親しめる場としての活用が望ましい。	<b>【暫定活用ゾーン設定】</b> 「スポーツと健康ゾーン」 (浜街道～野村運動公園) ・廃川敷地にはゲートボール場、沿川には野村運動公園、市立総合体育館等がある。これらの施設と連携した健康増進の場としての活用が望ましい。	<b>【暫定活用ゾーン設定】</b> 「スポーツと健康ゾーン」 (浜街道～野村運動公園) 「花と緑の文化ゾーン」 (野村運動公園～国道1号)	<b>【暫定活用ゾーン設定】</b> 「花と緑の文化ゾーン」 (野村運動公園～国道1号) ・桜並木があり、地元住民による美化活動も行われてきた。近隣には歴史的史跡である宿本陣もあり、人々の憩いのスペースとしての活用が望ましい。
アンケートでのエリア		<b>Cゾーン</b>		<b>Bゾーン</b>		<b>Aゾーン</b>	
市民アンケート結果		1位 自然空間 (32.7%) 2位 公園 (17.5%) 3位 市民農園 (10.0%) 4位 道路 (10.0%)	5位 スポーツ施設 (7.5%) 6位 福祉空間 (7.3%) 7位 防災拠点 (7.2%)	1位 公園 (29.1%) 2位 防災拠点 (19.9%) 3位 道路 (11.4%) 4位 スポーツ施設 (7.4%)	5位 福祉空間 (7.1%) 6位 自然空間 (7.0%) 7位 歴史空間 (5.3%)	1位 公園 (28.5%) 2位 歴史空間 (17.4%) 3位 防災拠点 (11.5%) 4位 道路 (10.3%)	5位 自然空間 (7.1%) 6位 福祉空間 (6.4%)
導入機能(H14)	アンケート項目						
歴史	歴史空間	←		→		2位	
緑	公園	←		→		2位	
	自然空間	←		→		1位	
	スポーツ施設	←		→		4位	
	市民農園	←		→		3位	
交通	道路	←		→		4位	
防災	防災拠点	←		→		2位	
ゾーンイメージ		潤いのある自然を生かした空間		市民に身近な生活空間		にぎわいのある歴史的な空間	
主な機能の例示		●自然環境の保全 ●自然に触れ合える空間 ●道路機能 ●循環型社会を支える機能(農業)		●市民に身近な生活空間 ●防災空間 ●中心市街地再生の拠点 ●観光の拠点 ●歴史的景観		●福祉空間 ●道路機能 ●交通結節点機能	

出会いが織りなすふるさと“元気”と“うるおい”のあるまち草津

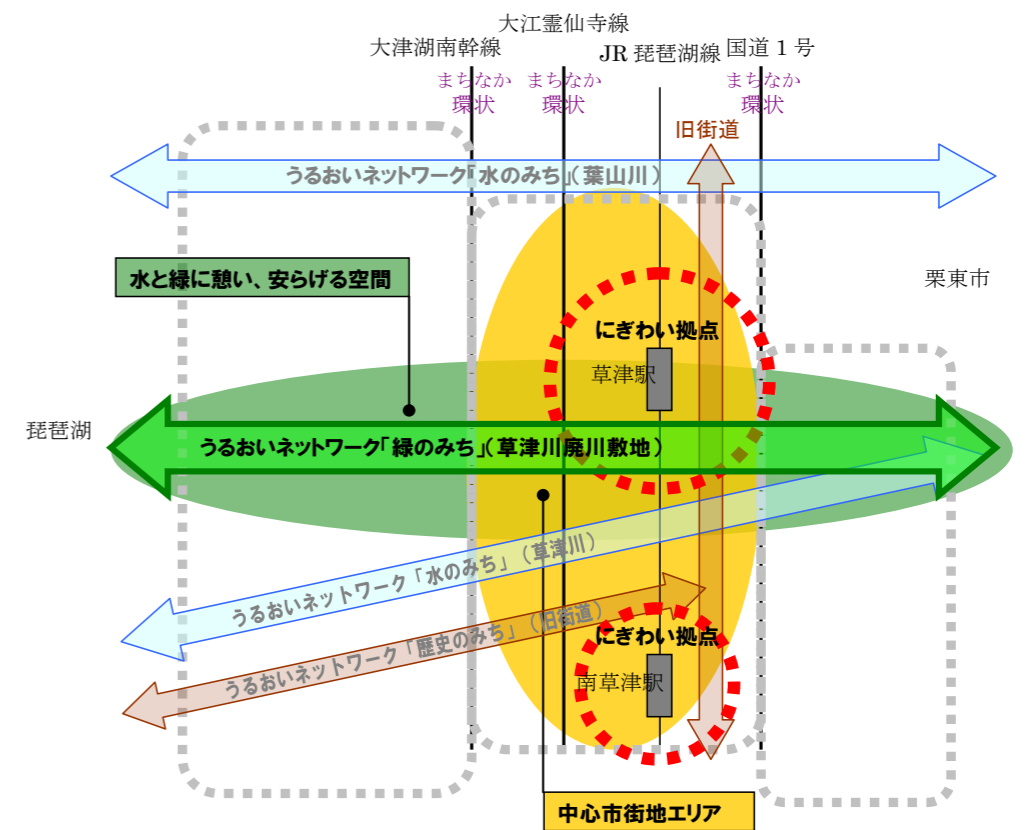
将来のビジョン

草津市の将来のまちの構造

■まちの構造



草津川・廃川敷地の位置づけと役割



●草津川・廃川敷地の位置づけと役割  
 緑・水・歴史などに恵まれた本市の特性は、それぞれが相まって、まちと暮らしにうるおいを導いています。これらを本市における人の営みにさらに生かして、市内外から親しみと憧れを集める快適なまちをつくるため、「緑のみち」「水のみち」「歴史のみち」という3つの「うるおいネットワーク」を位置づけています。その中で草津川・廃川敷地は、「緑のみち」として位置づけられ、以下の役割を果たします。  
 ○周辺の歴史的な資源も含めた総合的な活用 ○中心市街地の魅力を高める  
 ○中心市街地・湖岸間の快適な移動 ○憩い・安らぎの空間

●第5次総合計画（基本計画）での草津川・廃川敷地の役割  
 ○中心市街地活性化の取り組みとの連携  
 ○水と緑に憩い、安らげる空間づくり

共生ゾーン

【自然環境との関わり合いのなかでの市民生活の営み】

農業・水産業のほか、自然環境との関わり合いのなかで市民生活が営まれているゾーンです。このうち湖岸域を、琵琶湖と人の関わり合いをより積極的につくっていく「くさつエコミュージアム」に位置づけます。

まちなかゾーン

【うるおい豊かでにぎわいと交流に満ちたまちなか居住の推進】

本市の中心市街地で、誰もが楽しめる“都心部”として、商工業施設、業務オフィス、文化・レクリエーション施設、官公署などの集約化を誘導するゾーンであり、うるおい豊かでにぎわいと交流に満ちた、まちなか居住ゾーンです。

文化・交流ゾーン

【快適な居住環境の保全と交流活動の促進】

快適な居住環境を守るとともに、大学を中心とした様々な分野の人材育成・研究・開発のほか、福祉・医療、文化等の交流活動や製造業等の産業活動を促進するゾーンです。

第5次総合計画

まちの構造

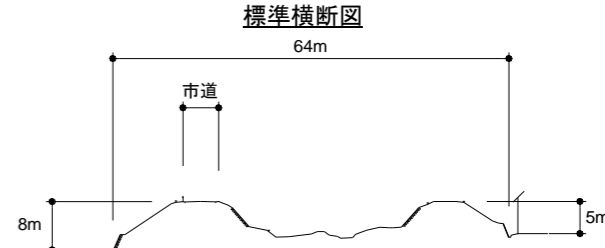
検討委員会

H14整備基本計画でのゾーン	ゾーン1 (湖岸道路～メロン街道)	ゾーン2 (メロン街道～浜街道)	ゾーン3 (浜街道～大津湖南幹線)	ゾーン4 (大津湖南幹線～JR琵琶湖線)	ゾーン5 (JR琵琶湖線～国道1号)	ゾーン6 (国道1号～金勝川合流部)
アンケートでのエリア	Cゾーン		Bゾーン		Aゾーン	
ゾーンイメージ	潤いのある自然を生かした空間		市民に身近な生活空間		にぎわいのある歴史的な空間	





<p>区間⑥</p>	<p>国道1号～JR東海道新幹線 延長約0.7km</p>	<p>地域の抱える現状の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政区境界が廃川敷地内を通っており、一体利用が困難である。</li> <li>・国道1号上は国道用地であり、土地利用の制約がある。</li> </ul>																																								
<p>ゾーンイメージ</p>	<p>【検討委員会】Aゾーン：にぎわいのある歴史的な空間                  【第5次総計】文化・交流ゾーン：快適な居住環境の保全と交流活動の促進</p>																																										
<p>主な機能の例示</p>	<p>【Aゾーン全体】                  ●市民に身近な生活空間 ●防災空間 ●中心市街地再生の拠点 ●観光の拠点 ●歴史的景観 ●福祉空間                  ●道路機能 ●交通結节点機能                  (※赤字は本ブロックの機能の例示)</p>																																										
<p>アンケートの総括</p>	<p>問14 Aゾーンで優先すべきこと</p> <table border="1"> <tr> <td>【全体】</td> <td>①公園 (28.5%)</td> <td>②歴史空間 (17.4%)</td> <td>③防災拠点 (11.5%)</td> <td>④道路 (10.3%)</td> </tr> <tr> <td>【沿川：大路地区】</td> <td>①公園 (45.0%)</td> <td>②防災拠点 (15.0%)</td> <td>③歴史空間 (15.0%)</td> <td>④観光拠点 (5.0%)</td> </tr> <tr> <td>【沿川：草津学区】</td> <td>①公園 (31.5%)</td> <td>②防災拠点 (14.1%)</td> <td>③道路 (12.0%)</td> <td>④福祉空間 (5.0%)</td> </tr> <tr> <td>【沿川：志津地区】</td> <td>①公園 (26.3%)</td> <td>②道路 (21.1%)</td> <td>③防災拠点 (15.8%)</td> <td>④歴史空間 (10.9%)</td> </tr> </table> <p>問15 堤防を残すべきか撤去すべきか</p> <table border="1"> <tr> <td>【全体】</td> <td>①部分的に残す (46.3%)</td> <td>②わからない (21.2%)</td> <td>③全域で残す (20.0%)</td> <td>④すべて撤去 (12.4%)</td> </tr> <tr> <td>【沿川：大路地区】</td> <td>①部分的に残す (40.8%)</td> <td>②全域で残す (39.5%)</td> <td>③わからない (10.5%)</td> <td>④すべて撤去 (9.2%)</td> </tr> <tr> <td>【沿川：草津学区】</td> <td>①部分的に残す (54.7%)</td> <td>②全域で残す (17.4%)</td> <td>③わからない (15.1%)</td> <td>④すべて撤去 (12.8%)</td> </tr> <tr> <td>【沿川：志津地区】</td> <td>①部分的に残す (46.3%)</td> <td>②わからない (19.4%)</td> <td>③すべて撤去 (17.9%)</td> <td>④全域で残す (16.4%)</td> </tr> </table>	【全体】	①公園 (28.5%)	②歴史空間 (17.4%)	③防災拠点 (11.5%)	④道路 (10.3%)	【沿川：大路地区】	①公園 (45.0%)	②防災拠点 (15.0%)	③歴史空間 (15.0%)	④観光拠点 (5.0%)	【沿川：草津学区】	①公園 (31.5%)	②防災拠点 (14.1%)	③道路 (12.0%)	④福祉空間 (5.0%)	【沿川：志津地区】	①公園 (26.3%)	②道路 (21.1%)	③防災拠点 (15.8%)	④歴史空間 (10.9%)	【全体】	①部分的に残す (46.3%)	②わからない (21.2%)	③全域で残す (20.0%)	④すべて撤去 (12.4%)	【沿川：大路地区】	①部分的に残す (40.8%)	②全域で残す (39.5%)	③わからない (10.5%)	④すべて撤去 (9.2%)	【沿川：草津学区】	①部分的に残す (54.7%)	②全域で残す (17.4%)	③わからない (15.1%)	④すべて撤去 (12.8%)	【沿川：志津地区】	①部分的に残す (46.3%)	②わからない (19.4%)	③すべて撤去 (17.9%)	④全域で残す (16.4%)	<p>堤防の除去の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道1号およびJR東海道新幹線付近は各管理者との協議・調整が必要であり、それ以外の区間の堤防の物理的除去は可能である。</li> <li>・堤防を道路(車道)として利用されている区間の堤防を撤去する場合は、道路の機能復旧が必要である。</li> <li>→アンケート結果では、沿川住民は「部分的に残す」の意見が最も多い。</li> <li>・堤防の高低差は8m程度</li> <li>・堤防を撤去する場合は桜の移植が避けられず、移植後に桜が根付く保証はない。</li> </ul>
【全体】	①公園 (28.5%)	②歴史空間 (17.4%)	③防災拠点 (11.5%)	④道路 (10.3%)																																							
【沿川：大路地区】	①公園 (45.0%)	②防災拠点 (15.0%)	③歴史空間 (15.0%)	④観光拠点 (5.0%)																																							
【沿川：草津学区】	①公園 (31.5%)	②防災拠点 (14.1%)	③道路 (12.0%)	④福祉空間 (5.0%)																																							
【沿川：志津地区】	①公園 (26.3%)	②道路 (21.1%)	③防災拠点 (15.8%)	④歴史空間 (10.9%)																																							
【全体】	①部分的に残す (46.3%)	②わからない (21.2%)	③全域で残す (20.0%)	④すべて撤去 (12.4%)																																							
【沿川：大路地区】	①部分的に残す (40.8%)	②全域で残す (39.5%)	③わからない (10.5%)	④すべて撤去 (9.2%)																																							
【沿川：草津学区】	①部分的に残す (54.7%)	②全域で残す (17.4%)	③わからない (15.1%)	④すべて撤去 (12.8%)																																							
【沿川：志津地区】	①部分的に残す (46.3%)	②わからない (19.4%)	③すべて撤去 (17.9%)	④全域で残す (16.4%)																																							
<p>現況特性</p>	<p>【沿川の土地利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅地の割合が大きい。上流側では工場・住宅・農地が混在している。</li> <li>・H14時点より、人口は全体的に増加傾向にあるが、周辺には都市公園・避難所がない。</li> </ul> <p>【廃川敷地の土地利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・左岸堤防及び右岸下流側堤防は市道が通っている。</li> <li>・左岸堤防沿いは区間⑤とあわせ連続的な桜並木がある。</li> <li>・河道部の一部は暫定的に整地され暫定利用されている。</li> <li>・国道横断部は、国が用地を所有している。</li> <li>・JR東海道新幹線より上流部は草津川防災ステーションとして整備中である。</li> <li>・左岸側の堤防道路は民地への進入路として利用されている区間がある。</li> </ul>	<p>土地利用の方向性</p>	<p>☆方向性として、土地利用に合わせて堤防の適切な処置を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●道路の機能(車道、歩行者・自転車道、ライフライン)</li> <li>●公園の機能(歴史、防災、景観、福祉)</li> <li>●駐車場の機能(観光)</li> <li>●桜並木(歴史、景観)</li> <li>●観光の機能(周辺の歴史的な資源の活用や新しい観光スポットの創出など)</li> </ul>																																								

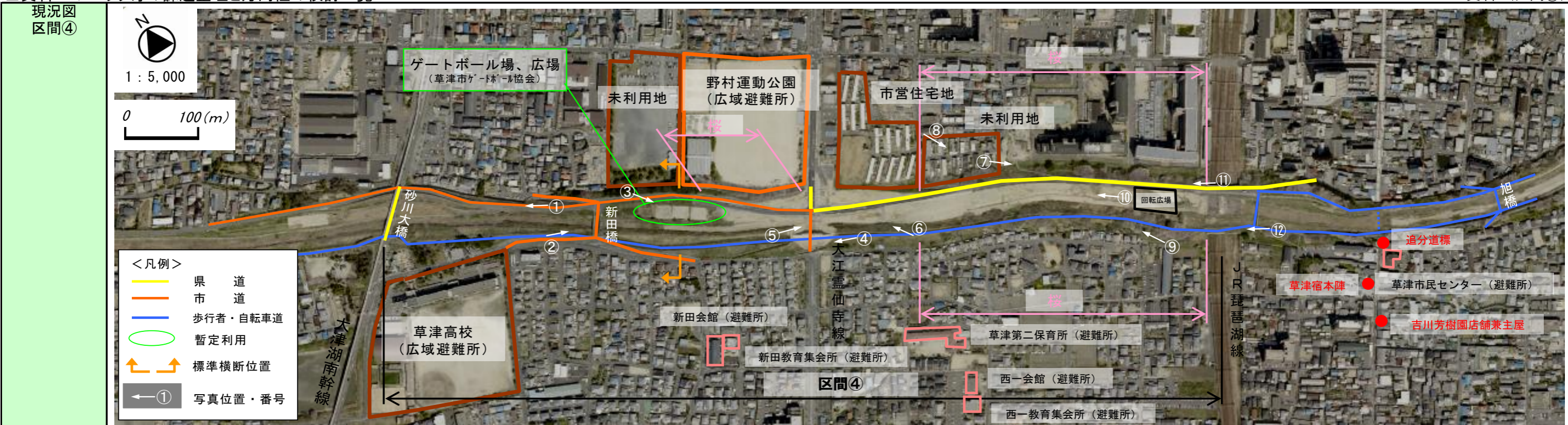






区間⑤	JR琵琶湖線～国道1号 延長約0.9km	地域の抱える現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR琵琶湖線上はJR用地であり、土地利用の制約がある。</li> <li>・国道1号上は国道用地であり、土地利用の制約がある。</li> <li>・JR1・2番線隧道は明治の原風景を残す土木遺産として価値も高く、草津川マンポとともに天井川のシンボリックな存在である。</li> <li>・右岸堤防には県道が通っているが、大型車が通行不可となっている。</li> <li>・人口の推移について、H14時点から右岸側沿川（大路地区）では増加している一方、左岸側（草津学区）では減少している。</li> <li>・左岸側の旧街道沿い商店街は、店舗が減少している。</li> </ul>
ゾーンイメージ	<p>【検討委員会】Aゾーン：にぎわいのある歴史的な空間</p> <p>【第5次総計】まちなかゾーン：うるおい豊かでのにぎわいと交流に満ちたまちなか居住の推進</p>	堤防の除去の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR琵琶湖線付近を除く区間の堤防の物理的除去は可能である。</li> <li>・国道1号交差点では国道管理者との協議・調整が必要である。</li> <li>・堤防を道路（歩行者・自転車道及び車道）として利用されている区間の堤防を撤去する場合は、道路の機能復旧が必要である。</li> <li>→アンケート結果では、沿川住民は「部分的に残す」の意見が最も多い。</li> <li>・堤防の高低差は8m程度</li> <li>・堤防を撤去する場合は桜の移植が避けられないが、桜を移植した場合、桜が根付く保証はない。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>標準横断面図</b></p> <p>☆方向性として、JR区間は撤去が極めて難しいが、それ以外の区間は土地利用に合わせて堤防の適切な処置を行う。</p>
主な機能の例示	<p>【Aゾーン全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●市民に身近な生活空間 ●防災空間 ●中心市街地再生の拠点 ●観光の拠点 ●歴史的景観 ●福祉空間</li> <li>●道路機能 ●交通結節点機能</li> </ul> <p>(※赤字は本ブロックの機能の例示)</p>	土地利用の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●道路の機能（車道、歩行者・自転車道、ライフライン）</li> <li>●公園の機能（歴史、防災、景観、福祉）</li> <li>●駐車場の機能（観光）</li> <li>●商業の機能（オープンカフェなどの民間活力の導入など）</li> <li>●桜並木（歴史、景観）</li> <li>●観光の機能（周辺の歴史的な資源の活用や新しい観光スポットの創出など）</li> </ul>
アンケートの総括	<p>問14 Aゾーンで優先すべきこと</p> <p>【全体】 ①公園 (28.5%) ②歴史空間 (17.4%) ③防災拠点 (11.5%) ④道路 (10.3%)</p> <p>【沿川：大路地区】 ①公園 (45.0%) ②防災拠点 (15.0%) ③歴史空間 (15.0%) ④観光拠点 (5.0%)</p> <p>【沿川：草津学区】 ①公園 (31.5%) ②防災拠点 (14.1%) ③道路 (12.0%) ④福祉空間 (5.0%)</p> <p>④歴史空間 (10.9%)</p> <p>問15 堤防を残すべきか撤去すべきか</p> <p>【全体】 ①部分的に残す (46.3%) ②わからない (21.2%) ③全域で残す (20.0%) ④すべて撤去 (12.4%)</p> <p>【沿川：大路地区】 ①部分的に残す (40.8%) ②全域で残す (39.5%) ③わからない (10.5%) ④すべて撤去 (9.2%)</p> <p>【沿川：草津学区】 ①部分的に残す (54.7%) ②全域で残す (17.4%) ③わからない (15.1%) ④すべて撤去 (12.8%)</p>	現況特性	<p>【沿川の土地利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地に位置し、右岸側は商業施設や集合住宅が中心、左岸側は住宅系中心の土地利用である。特に左岸側の地区は旧街道沿いの商店街を中心に古い町並みが残っている。</li> <li>・右岸上流側のJR草津駅周辺では、H14時点から人口が大幅に増加する一方で、都市公園・避難所が少ない。</li> <li>・旧街道では宿場まつりをはじめとするイベントが定期的開催されている。</li> </ul> <p>【廃川敷地の土地利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・右岸及び左岸上流側堤防は歩行者・自転車道が通り、右岸下流側堤防は県道が通っている。</li> <li>・両岸堤防沿いには桜並木があり、市民の憩いの場となっている。</li> <li>・河道部の一部は暫定的に整地され、暫定利用されている。</li> <li>・JR及び国道横断部は、それぞれの事業者が用地を所有している。</li> <li>・JR琵琶湖線1・2番線隧道は明治の原風景を残す土木遺産であり、旧街道沿いに草津川マンポがある。</li> </ul>





<b>区間④</b>	大津湖南幹線～JR琵琶湖線 延長約1.2km	<b>地域の抱える現状の課題</b> ・未利用地が連続して隣接し、一体的な活用も視野に入れた検討が必要。
<b>ゾーンイメージ</b>	【検討委員会】 Bゾーン：市民に身近な生活空間 【第5次総計】 まちなかゾーン：うるおい豊かでのびやかと交流に満ちたまちなか居住の推進	
<b>主な機能の例示</b>	【Bゾーン全体】 ●市民に身近な生活空間 ●防災空間 ●中心市街地再生の拠点 ●観光の拠点 ●歴史的景観 ●福祉空間 ●道路機能 ●交通結節点機能 (※赤字は本ブロックの機能の例示)	
<b>アンケートの総括</b>	<p>問14 Bゾーンで優先すべきこと</p> <p>【全体】 ①公園 (29.1%) ②防災拠点 (19.9%) ③道路 (11.4%) ④スポーツ拠点 (7.4%)          【沿川：笠縫学区】 ①公園 (24.0%) ②防災拠点 (19.0%) ②道路 (19.0%) ④スポーツ拠点 (6.0%)          【沿川：山田学区】 ①公園 (36.1%) ②道路 (19.7%) ③防災拠点 (11.5%) ④文化活動拠点 (6.0%)          【沿川：大路地区】 ①公園 (30.4%) ②防災拠点 (18.8%) ②自然空間 (15.9%) ④福祉空間 (6.0%)          【沿川：草津学区】 ①公園 (29.2%) ②防災拠点 (18.1%) ③道路 (12.5%) ④スポーツ拠点 (8.2%)          【沿川：大路地区】 ①公園 (30.4%) ②防災拠点 (18.8%) ②自然空間 (15.9%) ④歴史空間 (11.6%)          【沿川：草津学区】 ①公園 (29.2%) ②防災拠点 (18.1%) ③道路 (12.5%) ④自然空間 (8.3%)</p> <p>問15 堤防を残すべきか撤去すべきか</p> <p>【全体】 ①部分的に残す (46.3%) ②わからない (21.2%) ③全域で残す (20.0%) ④すべて撤去 (12.4%)          【沿川：笠縫学区】 ①部分的に残す (44.7%) ②全域で残す (20.0%) ③わからない (18.8%) ④すべて撤去 (16.5%)          【沿川：山田学区】 ①部分的に残す (61.3%) ②すべて撤去 (16.1%) ③わからない (14.5%) ④全域で残す (8.1%)          【沿川：大路地区】 ①部分的に残す (40.8%) ②全域で残す (39.5%) ③わからない (10.5%) ④すべて撤去 (9.2%)          【沿川：草津学区】 ①部分的に残す (54.7%) ②全域で残す (17.4%) ③わからない (15.1%) ④すべて撤去 (12.8%)</p>	<b>堤防の除去の方向性</b> ・JR琵琶湖線付近を除く区間の堤防の物理的除去は可能である。 →アンケート結果では、沿川住民は「部分的に残す」の意見が最も多い。 ・堤防を道路(歩行者・自転車道及び車道)として利用されている区間の堤防を撤去する場合は、道路の機能復旧が必要である。 ・堤防の高低差は9m程度 ・堤防を撤去する場合は桜の移植が避けられず、移植後に桜が根付く保証はない。
<b>現況特性</b>	<p>【沿川の土地利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校・運動公園などの公共施設が隣接し、避難所としての機能は確保されている。H14時点から大きな人口の増減は見られない。</li> <li>右岸側は、市等が所有する未利用地が連続して隣接している。</li> </ul> <p>【廃川敷地の土地利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>左岸堤防は歩行者・自転車道、右岸堤防には市道が通っている。</li> <li>大江霊仙寺線は堤防を切下げた平面道路として整備され、歩行者・自転車道は橋梁により立体交差している。</li> <li>大津湖南幹線は堤防を切下げた平面道路として整備中で、歩行者・自転車道は橋梁により立体交差する予定である。</li> <li>両岸上流側には桜並木があり、河道部の一部は暫定的に整地され暫定利用されている。</li> <li>JR横断部は、JRが用地を所有している。</li> <li>大江霊仙寺線との交差部には小公園が整備されている。</li> <li>敷地の横断幅は110m程度と6区間の中で最も広い。</li> </ul>	<p><b>標準横断図</b>          111m          市道 歩行者・自転車道 市道          7m 9m</p> <p>☆方向性として、土地利用に合わせて堤防の適切な処置を行う。</p> <p><b>土地利用の方向性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●道路の機能(車道、歩行者・自転車道、ライフライン)</li> <li>●公園の機能(歴史、防災、景観、福祉)</li> <li>●商業の機能(オープンカフェなどの民間活力の導入など)</li> <li>●桜並木(歴史、景観)</li> <li>●スポーツ機能(既存施設と未利用地などを一体的に利用するなど)</li> <li>●観光の機能(周辺の歴史的な資源の活用や新しい観光スポットの創出など)</li> </ul>





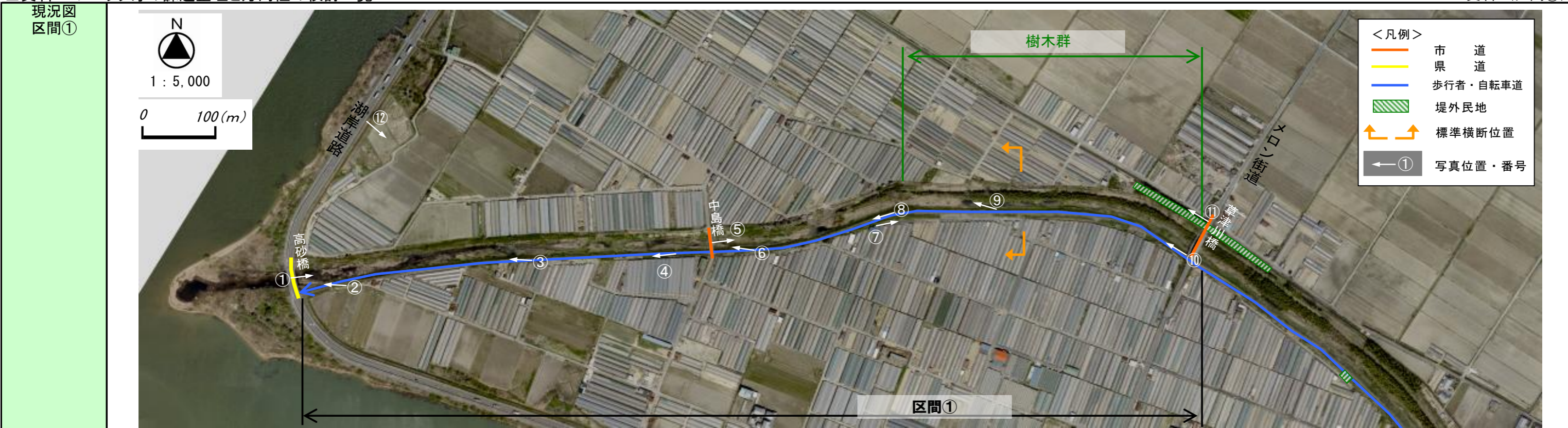
区間③	浜街道～大津湖南幹線 延長約1.7km	地域の抱える現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弾正公園の駐車場が不足することがある。</li> <li>・堤外民地がある。</li> </ul>
ゾーンイメージ	<p>【検討委員会】 Bゾーン：市民に身近な生活空間</p> <p>【第5次総計】 共生ゾーン：自然環境との関わり合いの中で市民生活の営み</p>		
主な機能の例示	<p>【Bゾーン全体】</p> <p>●市民に身近な生活空間 ●防災空間 ●中心市街地再生の拠点 ●観光の拠点 ●歴史的景観 ●福祉空間</p> <p>●道路機能 ●交通結节点機能</p> <p>(※赤字は本ブロックの機能の例示)</p>		
アンケートの総括	<p>問14 Bゾーンで優先すべきこと</p> <p>【全体】 ①公園 (29.1%) ②防災拠点 (19.9%) ③道路 (11.4%) ④スポーツ拠点 (7.4%)</p> <p>【沿川：笠縫学区】 ①公園 (24.0%) ②防災拠点 (19.0%) ②道路 (19.0%) ④スポーツ拠点 (6.0%)</p> <p>④文化活動拠点 (6.0%)</p> <p>④福祉空間 (6.0%)</p> <p>【沿川：山田学区】 ①公園 (36.1%) ②道路 (19.7%) ③防災拠点 (11.5%) ④スポーツ拠点 (8.2%)</p> <p>問15 堤防を残すべきか撤去すべきか</p> <p>【全体】 ①部分的に残す (46.3%) ②わからない (21.2%) ③全域で残す (20.0%) ④すべて撤去 (12.4%)</p> <p>【沿川：笠縫学区】 ①部分的に残す (44.7%) ②全域で残す (20.0%) ③わからない (18.8%) ④すべて撤去 (16.5%)</p> <p>【沿川：山田学区】 ①部分的に残す (61.3%) ②すべて撤去 (16.1%) ③わからない (14.5%) ④全域で残す (8.1%)</p>	堤防の除去の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・右岸は堤防道路が進入口となっている民地が点在し、堤防の除去が難しい。</li> <li>→上笠橋周辺は切下げに制約がある。</li> <li>・左岸は堤防の物理的撤去が可能である。</li> <li>・堤防を道路（歩行者・自転車道及び車道）として利用されている区間の堤防を撤去する場合は、道路の機能復旧が必要である。</li> <li>→アンケート結果では、沿川住民は「部分的に残す」の意見が最も多い。</li> <li>・堤防の高低差は3m程度</li> </ul> <p>標準横断面図</p>
現況特性	<p>【沿川の土地利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下流側は学校・公園等の公共施設、上流側は住居系で構成されている。また、大津湖南幹線沿いには工場が立地している。H14時点から大きな人口の増減は見られない。</li> </ul> <p>【廃川敷地の土地利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・左岸堤防は歩行者・自転車道、右岸堤防には市道が通っている。</li> <li>・特徴的な植生はない。</li> <li>・河道部の一部では、今後暫定利用が予定されている。</li> <li>・堤外民地（下笠町財産区）が多く存在する。</li> <li>・右岸側の堤防道路は民地への進入路として利用されている区間が点在している。</li> </ul>	土地利用の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●道路の機能（車道、歩行者・自転車道、ライフライン）</li> <li>●公園の機能（スポーツ系など）</li> </ul> <p>☆方向性として、土地利用に合わせて堤防の適切な処置を行う。</p>





<p>区間②</p>	<p>メロン街道～浜街道 延長約1.2km</p>	<p>地域の抱える現状の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河道内に植生している樹木群は雑草とともに荒れた状態にある。 →閉鎖的な環境をつくり、防犯面や衛生面（不法投棄など）の問題がある。 →樹木を増やすことは害虫・害鳥の問題を生じさせる可能性がある。（周辺農地への配慮が必要）</li> <li>・サイクリングロードは整備済みであるが、車のアクセスが悪い。 →アンケート結果では、沿川住民は道路整備を要望する割合が高い。</li> <li>・堤外民地がある。</li> </ul>
<p>ゾーンイメージ</p>	<p>【検討委員会】 Cゾーン：潤いのある自然を生かした空間 【第5次総計】 共生ゾーン：自然環境との関わり合いの中で市民生活の営み</p>	<p>堤防の除去の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境をどこまで保全するかで堤防除去の方向性が異なる。</li> <li>・堤防の高低差は5m程度。</li> <li>・堤防を道路（歩行者・自転車道及び横断する車道）として利用されている区間の堤防を撤去する場合は、道路の機能復旧が必要である。</li> </ul>
<p>主な機能の例示</p>	<p>【Cゾーン全体】 ●自然環境の保全 ●自然に触れ合える空間 ●道路機能 ●循環型社会を支える機能（農業） （※赤字は本ブロックの機能の例示）</p>	<p>土地利用の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●道路の機能（車道、歩行者・自転車道、ライフライン）</li> <li>●公園の機能（市民農園、里山的利用）</li> <li>●堆肥場（周辺の野菜残さの一部を堆肥にするなど）</li> </ul>
<p>アンケートの総括</p>	<p>問14 Cゾーンで優先すべきこと 【全体】 ①自然空間 (32.7%) ②公園 (17.5%) ③市民農園 (10.0%) ④道路 (10.0%) 【沿川：笠縫学区】 ①自然空間 (33.8%) ②道路 (15.5%) ③防災拠点 (12.7%) ④公園 (11.3%) 【沿川：山田学区】 ①自然空間 (29.7%) ②道路 (21.6%) ③公園 (10.8%) ④福祉空間 (10.8%)</p> <p>問15 堤防を残すべきか撤去すべきか 【全体】 ①部分的に残す (46.3%) ②わからない (21.2%) ③全域で残す (20.0%) ④すべて撤去 (12.4%) 【沿川：笠縫学区】 ①部分的に残す (44.7%) ②全域で残す (20.0%) ③わからない (18.8%) ④すべて撤去 (16.5%) 【沿川：山田学区】 ①部分的に残す (61.3%) ②すべて撤去 (16.1%) ③わからない (14.5%) ④全域で残す (8.1%)</p>	<p>標準横断面図</p>	<p>☆方向性として、土地利用に合わせて堤防の適切な処置を行う。</p>
<p>現況特性</p>	<p>【沿川の土地利用】 ・農地を主体とした土地利用であり、農村集落が点在している。特に左岸側はビニールハウス群が広がっている。 ・H14時点から大きな人口の増減は見られない。 ・市街化調整区域であり、土地利用の変化は少ない。</p> <p>【廃川敷地の土地利用】 ・左岸堤防は歩行者・自転車道として整備されている。右岸には整備された道路なし。 ・右岸部には樹木群が形成されている。河道部は雑草が繁茂し近寄り難い。 ・堤外民地（下笠町財産区など）が多く存在する。</p>		





<p>区間①</p>	<p>湖岸道路～メロン街道 延長約1.3km</p>	<p>地域の抱える現状の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川区域であり利活用が制限される。</li> <li>・サイクリングロードは整備済みであるが、車でのアクセス性が悪い。</li> <li>・ビオトープとして保全・再生するためには手入れが必要。(特に水循環の問題は自然では回復しない)</li> <li>・沿川に住居がなく、防犯上・衛生上(不法投棄など)の問題が懸念される。</li> <li>・農地への害虫・害鳥の問題があり、樹木を植栽する場合は配慮が必要。</li> <li>・堤外民地がある。</li> </ul>
<p>ゾーンイメージ</p>	<p>【検討委員会】Cゾーン：潤いのある自然を生かした空間 【第5次総計】共生ゾーン：自然環境との関わり合いの中で市民生活の営み</p>	<p>堤防の除去の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堤防を道路(歩行者・自転車道及び横断する車道)として利用されている区間の堤防を撤去する場合は、道路の機能復旧が必要である。</li> <li>→アンケート結果では、沿川住民は「部分的に残す」の意見が最も多い。</li> </ul>
<p>主な機能の例示</p>	<p>【Cゾーン全体】 ●自然環境の保全 ●自然に触れ合える空間 ●道路機能 ●循環型社会を支える機能(農業) (※赤字は本ブロックの機能の例示)</p>	<p>土地利用の方向性</p>	<p>県の管理区間(県施工・管理) ●ビオトープの機能 ●公園の機能(自然) ●道路の機能(歩行者・自転車道)</p>
<p>アンケートの総括</p>	<p>問14 Cゾーンで優先すべきこと 【全体】①自然空間(32.7%) ②公園(17.5%) ③市民農園(10.0%) ④道路(10.0%) 【沿川：笠縫学区】①自然空間(33.8%) ②道路(15.5%) ③防災拠点(12.7%) ④公園(11.3%) 【沿川：山田学区】①自然空間(29.7%) ②道路(21.6%) ③公園(10.8%) ④福祉空間(10.8%)</p> <p>問15 堤防を残すべきか撤去すべきか 【全体】①部分的に残す(46.3%) ②わからない(21.2%) ③全域で残す(20.0%) ④すべて撤去(12.4%) 【沿川：笠縫学区】①部分的に残す(44.7%) ②全域で残す(20.0%) ③わからない(18.8%) ④すべて撤去(16.5%) 【沿川：山田学区】①部分的に残す(61.3%) ②すべて撤去(16.1%) ③わからない(14.5%) ④全域で残す(8.1%)</p>	<p>標準横断面図</p>	<p>☆方向性としては、河川区域の扱いを含め県と協議しながら方向性を決めていく。</p>
<p>現況特性</p>	<p>【沿川の土地利用】 ・農地がほぼ全域を占めている。 ・農地は概ねビニールハウス群が占めている。</p> <p>【河川区域の土地利用】 ・県が河川区域として管理している。 ・左岸堤防は歩行者・自転車道として整備されている。右岸には道路なし。 ・右岸部の一部区間に樹木群が形成されている。河道部は雑草が繁茂し近寄り難い。 ・現況は水の流れがなく、水質が悪化している。 ・堤外民地(下笠町財産区)が一部存在する。</p>		